

ケータイ文化の中でのニートの克服事例

－ 履歴図作成の提案 －

山形大学学術情報基盤センター 助教授 加納 寛子

kanoh@kdeve.kj.yamagata-u.ac.jp

キーワード：ケータイ文化、ニート、履歴図、ブログ、パラサイト、無業者、フリーター、プータロウ

1. はじめに

総務省の定義によれば、ニートとは、通学も仕事もしておらず職業訓練も受けていない、配偶者のいない独身者である15歳以上34歳以下の個人である。非求職型及び非希望型の無業者である点が失業者と異なる。このようなニートは、「若年無業者に関する調査（中間報告）」によれば、2002年時点で213万人に達し、1992年からの10年間で80万人増加し、今日に至る問題となっている。

ニートが生まれる背景には、必ず満たされなければ成立し得ない1つの条件がある。それは、収入に結びつく何かをせざるも生存が脅かされないことである。収入に結びつく何かをせざるも餓死した場合はニートとは呼ばれない。精神的には苦しみながらであっても、毎日収入につながる時間を過ごしても、親の家にパラサイトしている限り、自由に使える個室が与えられ、衣食住に不自由しないのがニートである。

このようなニートに対する、大学生の目は冷ややかである。大学1年生に授業の中で、ニートについてどう思うかを尋ねたところ、8割が個人の責任であるとの見解であった。働こうとする意志がなく、職業訓練も受けていない、確かに個人の責任といえる要因も少なくない。しかし、ニートの人口が増加しつつある現在、社会現象ととらえたとき、ニートの増加はすべての者にとって好ましくない傾向であり、社会全体の課題である。なぜなら、高齢者が増加し、労働人口の割合が減少している中、労働可能な若者の一部も非労働人口となると、わずかな労働人口で多数の非労働人口の生活を支えることになる。親がまだ現役で働いているうちは家庭内で、養う者と養われる者のバランスがかるうじて保たれている。しかし、子世代が30代ともなれば、親世代の大半は定年退職し年金生活に入り、親の年金に、ニートの若者もぶら下がることになる。これを一つのモデル図に表すと図1（労働者家庭とニート家庭の扶養関係モデル図）のようになる可能性がある。

もちろん2人に1人がニートというほどにはまだ多くはないので、1人の労働者が隣家の家族全員を扶養することはないが、現在34歳以下とされているニートもやがては40代に突入し、ますます非労働者人口の増加が予測される。そしていずれは、年金をもらっている両親もいなくなる。両親の死亡届を出してしまえば、年金は入らなくなってしまいうため、両親が死亡してもいつまでも生きていることとし年金をもらい続け、年金人口の肥大化が起きる。これはすでに失業人口の多いブラジルで起きている社会問題の一つであり、今後日本でも起こりうる可能性がある。このような問題が深刻になる前に、ニートや失業など労働可能年齢の非労働者を減少させるべく対策が必要であろう。

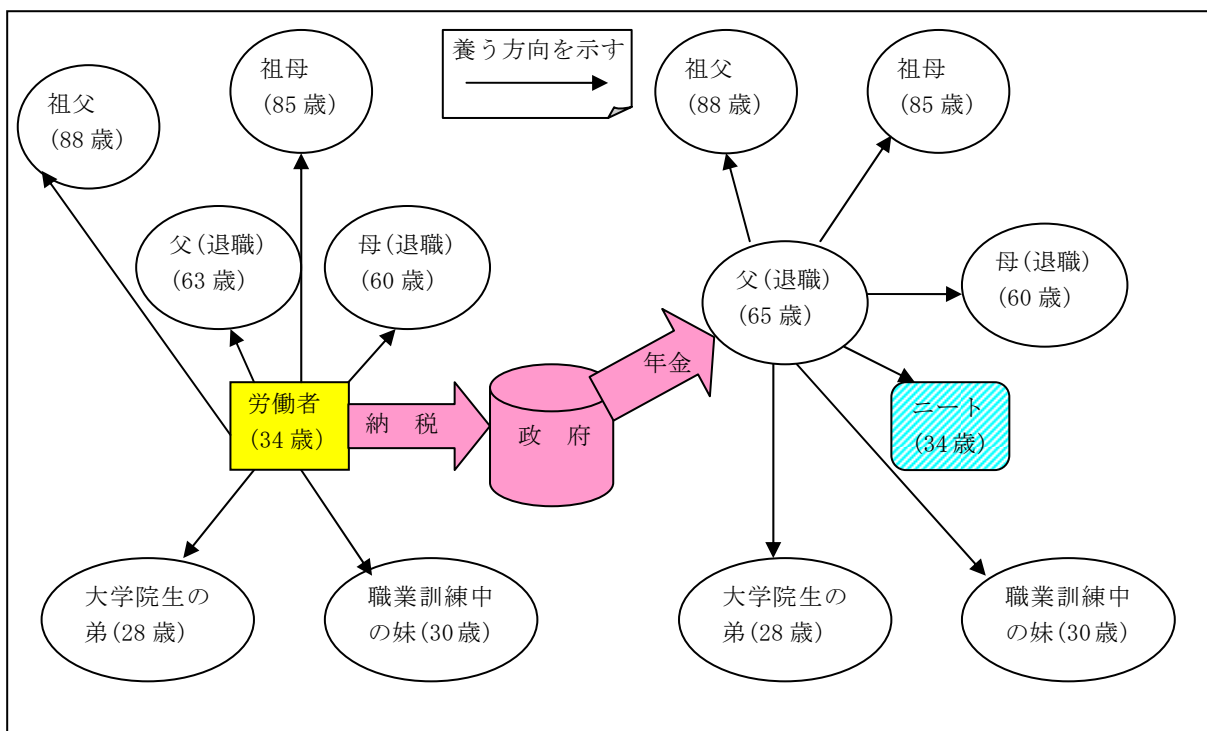


図1 労働者家庭とニート家庭の扶養関係モデル図

2. 履歴図作成の提案

ユビキタスチップや多様な携帯端末の普及によって、いつでもどこからでも遠くにいる人や物や情報へのかかわりが容易となった文化がケータイ文化である。ケータイ文化がニートを生み出したわけではないが、同時代に派生した事象であり、ケータイ文化はニート克服の一助となりうると考えている。もちろん、どのような時代にも、その文化を享受する者とならない者の両者が混在し、ニート減少のための対策を考える折にも、ケータイ文化の内にいる者と、外にいる者への対処法は異なり、ケースバイケースの対応が必要であるが、どのような場合であってもプロセスを把握しなければ対処法は考えられない。

また、無業者に対する呼び名は、ニートの他にプータロウ、失業者、就職浪人などがあり、生計が成り立たないフリーターも無業者に近い。そして、これらの集合をベン図で表したとき、必ずしも排反事象でなく、重なり合う部分少なくない。フリーターや有職者であっても不景気のために職を失い労働意欲を削がれニートになりうる可能性もあり、誰にでも起こりうる事象ととらえる必要がある。誰にでも起こりうる故に、ニートに至るには必ず何らかの要因が存在し、要因を探るためにもニートに至るプロセスの分析が重要である。

従ってニート克服のためには、ニートに至るプロセスを示す履歴図の作成を提案したい。そして、ケータイ文化の特色を生かし、作成された履歴図を様々な価値観・職業観の善意の人々が閲覧可能にし、いろいろな視点からアドバイスをしたり、時には個々に応じた働く契機を提案したりしていくことにより、無業者の減少につながるであろう。

3. ブログ作成によるニートの克服事例

希望してニートになるケースはなく、本人はとてもしみもがいているものである。ニートになるケースの多くに、芸術家志向の場合が少なくない。芸術家として成功するのはほんの一握りである。諦めきれず悶々とした気持ちのまま、何もせずに時を過ごしてしまうケースである。そのような典型的な例を図2に示した。時系列は左から右に進み、起きた出来事は四角囲みの中に記述し、そのときの気持ちは丸の中に記述した履歴図である。十方向の気持ちの場合は上向きの矢印、一方向の気持ちの場合は下向きの矢印で感情の起伏を示してある。図2の例は、仕事につけという親や周囲の大人からの説教にはうんざりしているが、ブログを作成し、ブログに対するメッセージにより癒され、自分の生きる道を探そうという意欲を持つようになっていった例である。満員列車の中、じっくり考えなければいけない書物や場所をとる雑誌類より、携帯電話でインターネット上の様々なページを閲覧する人口は増加しつつある。携帯電話で読める読み物を求めているというニーズがあり、携帯ブログで発信し心の内を聞いてほしいという提供者がいる。悪意の書き込みを排除した、パスワード型ブログの作成と善意の書き込みにより、ニートに分類される者が、苦しみから解放され、自らの道を見つけていく足場の一つとなる。

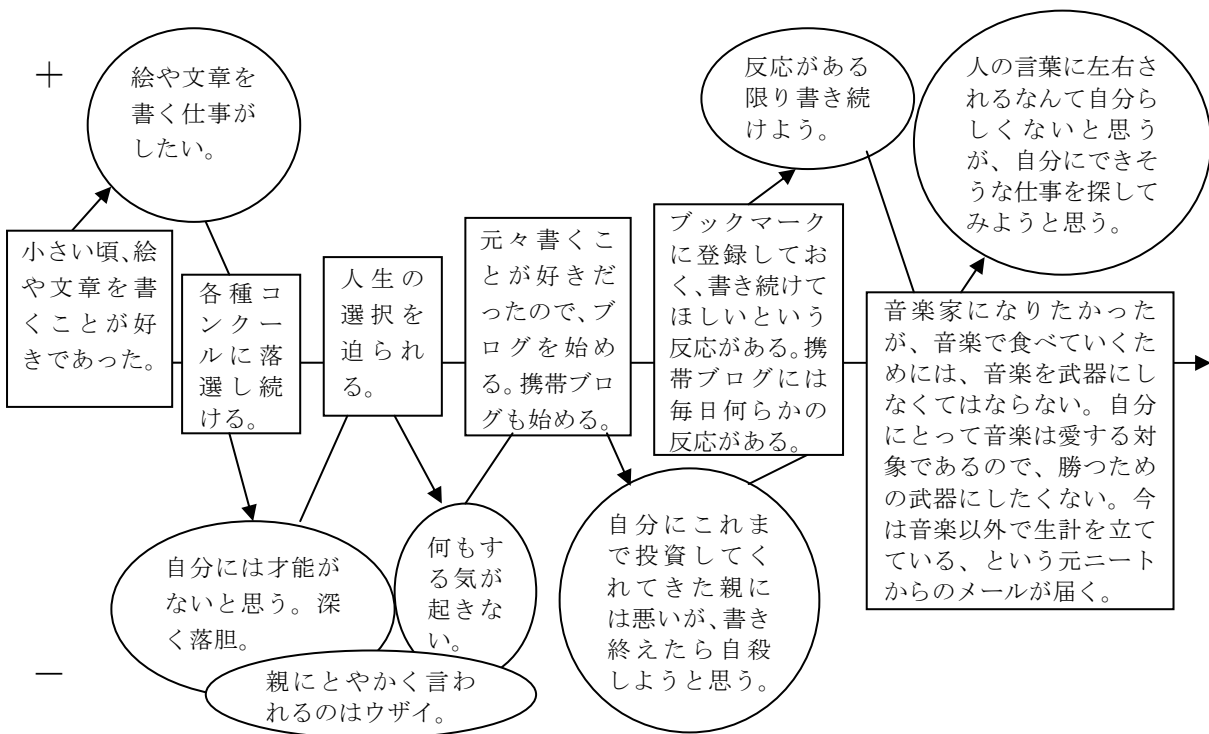


図2 ブログ作成によるニートの克服事例の履歴図